



Lead【ニュース】 育ちあいのひろばの7年

○平成23年～24年度

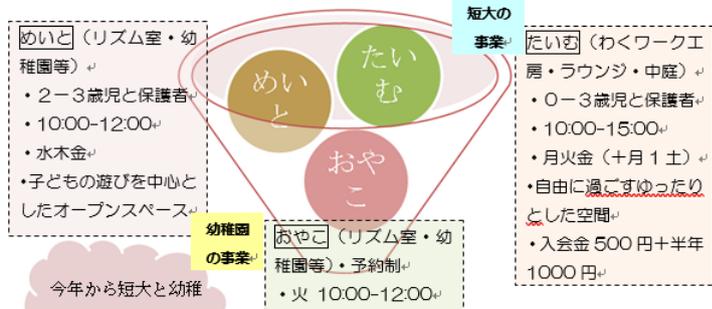
平成23年4月、前任者から「ほっとステーション」を引き継ぎ、新たな要素を加えて3つのほっとステーション（たいむ／めいと／おやこ）として生まれ変わりました。前年までの「ほっとステーション」は、リズム室を使用した10:00-12:00までの活動でした。発達が心配な子どもの活動もすでに行っていたため、そこに、現育ちあいのひろばの要素（夕方まで開いて、いつ来ても良く、ゆったり過ごす場）を加え、「たいむ」としました。

たいむ	めいと	おやこ
10:00-15:00	10:00-12:00	10:00-12:00
月・火・金（土曜：月1回）	水・木・金	火（予約制）
<ul style="list-style-type: none"> ・0～3歳児と保護者のゆったりできるつどいの場 ・当事者主体の場 ・育児の相談 ・地域との連携 ・情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3歳児と保護者の遊びとつどいの場 ・園庭開放等幼稚園との連携 ・育児の相談 ・情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達が心配なお子さん、子育てに少し心配なことがある保護者など、じっくり話したい親子の小グループ
短大本館：わくワーク工房、ラウンジ、中庭、図書館ほか	短大2号館：リズム室、幼稚園・園庭ほか	短大2号館：リズム室、幼稚園・園庭ほか
0～3歳の子どものとその保護者／人数制限なし：おおむね20組程度	2～3歳の子どものとその保護者／人数制限なし	予約制

○リニューアルのポイント

「2つのほっとステーション」

「短期大学事業」「幼稚園事業」～2つの色の良さを持った、ほっとステーションに「進化」します！



今年から短大と幼稚園が一緒に運営することになりました。

ほっとステーション



リニューアルオープンのお知らせ

第1回のもちつき（H24年1月）その後も続く行事に

当時の私（石井）は、おたよりに次のように書いていました。「ほっとステーションでは、参加して下さる保護者が「ほっと」一息ついて、子どもたちがのびのび過ごせる場になることを願っています。3つの色の「ほっと」する場を皆さんと一緒に創りたいと思っています」

これは、以前からあった「ほっとステーション親子」の活動に敬意を払いつつも、それまで私が関わってきた新宿区の「ゆったりーの」の活動をモチーフにして、「支援する側→される側」へのサービス提供型の子育て支援ではなく、「いろいろな人がそれぞれの立場からその場に関わり、結果的に誰かを支えるような広場」「当事者同士が支え合える場」をつくりたいと、「たいむ」という要素を加えたいという思いから発した表現でした。



まだ床がPタイルでした 男性用トイレを子ども用トイレに改装 ほっとステーションめいとの活動



当時のパンフの表紙に使った写真の意味

この写真は、とても印象的な写真だったので、パンフの表紙にしていました。もう今では小学生になったMちゃんが、当時お母さんのおなかに新しい命が宿って、いよいよもうすぐ生まれるという時に、たいむに来ていた赤ちゃんをあやし始めました。

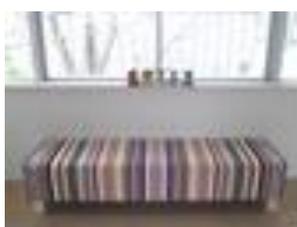
きょうだい関係ではない、異年齢の関わりこそ、このひろばの目指しているもの＝象徴的な写真ということで、表紙にしました。

・家ではできないような経験をたくさんしてほしい！
・まいペースもこの年に誕生



まいペース・まいすべえすとは

- ★ まいペース・まいすべえすとは、あえて、**たいむにスタッフを配置しない時間**をつくることで、利用する会員のみなさんが、自主的にそして自由に、時間とスペースを使うことを目的としています。
- ★ スタッフを配置しないことで、利用するみなさんが「利用者であり、スタッフである」という、自己責任と自主的活動の機会になればと思い、2012年秋ごろからひろばを開放しています。



このイスは24年頃～



この電車のマットも



授乳スペースとイスもこの頃

過ごしやすい環境を整え、子どもの場所に大人の居場所を作るようにしました。かつ、なるべくおしゃれなものを

千葉明德短期大学 子育て支援ひろば
たいむ
4・5月
【 H24・4・9 発行 】

たいむ
素朴な疑問...
Q&A

初めて訪れる場所はわくわく期待もしますが、ドキドキしたり緊張することのほうが大きかったりしますよね。困ったことや質問があれば、スタッフに何でも聞いて下さい。

- Q. 何時に来てもいいのですか?
A. 10:00~15:00の間はいつでもおきています。ご都合に合わせてお越し下さい。
- Q. 必要な持ち物がありますか?
A. 水分補給の飲み物やお風呂はんごを持参される方はお持ちください。短大館内を歩くので上靴をお持ちになることをおすすめします。着替えを履いた場合は貸し出します。おむつも販売しています。その際はスタッフに声を掛けて下さい。
- Q. お父さんも来ていいですか?
A. お父さんの来賓大歓迎です！お父さんにとって魅力的で楽しい活動、心地よい場所を創りたいと思っています。

たいむが生まれ1年が経ち、2年目の活動が始まります。
昨年度1年間の締めくりに3月12日に「1年間お疲れさま会」を行いました。4月から幼稚園に通ったり、お引越しをする7組の子どもとお母さん達を送るため、お母さん方が企画し、証書・お祝いのペンダントの準備を重ねてきてくれました。幼稚園に入園する子どもたちだけではなく、ボランティアに入った短大を卒業していく2年生の学生に対しても「今まで一緒に遊んでくれた感謝の思いを伝えたい」ということで賞状を渡しました。
「証書授与」では緊張した表情で証書を受け取り、お母さんの側に戻るとそれを嬉しそうに見つめる子やはにかむように笑みを浮かべながら受け取る学生の姿が見られました。たいむという場所を通して、様々な性格や個性を持った子ども・大人と出会い、お互いの存在を認め、感謝し伝え合う関係に1年間かけて変化してきたのかなと感じられ、私も感動しました。
昨年度とはまた違った新しいたいむの活動が始まります。新たな出会いに期待しつつ、参加する親子・学生・スタッフでどのような時間「たいむ」を創りだせるか楽しみに思っています。穏やかな時間が流れる場所、親子の意見が随所に詰まった活動を創っていきたく思います。ぜひ私たちと一緒に「たいむ」を創っていきましょう。

- Q. お風呂に入りはどんなことをするのですか?
A. 子どもたちはのびのび遊びを楽しんで、保護者の方はのんびりくつろぐ時間を大切にしてください。みんなで集まる時間は持たせ、エンターテインメントの活動もしています。
- Q. 授乳やオムツ替えの場所はありますか?
A. ねんねの工房内に授乳スペースがあります。また、おむつ替え台が子どものために設置してあります。自由にお使いください。
- Q. 行事はありますか?
A. お母さん方が企画した「1年間お疲れさま会」や学生が企画した「クリスマス会」など、参加する方の声をもとに一緒に行事を創っています。

スタッフ紹介

<p>石井 孝仁 今年も富士山に登りたいです！皆さんもいかがですか！ </p>	<p>伊嶋 しのぶ いつも元気で、趣味はクライミング！今年はずっと筋力つけていきます！ </p>
<p>久我 紗奈 娘と一緒にスマイルプリキュアにハマっています！ </p>	<p>浅沼 志帆 新米ママです。妊娠してから波乗りに行けずウズウズしています。 </p>
<p>高橋 里登 27歳。干物女にならないよう日夜修行中！(笑) </p>	<p>「たいむ」を一緒に創る仲間でありたいと思っています。活動に対してのご意見、アドバイス...どしどしお待ちしております！どうぞよろしくお願致します。 </p>

9月 【 H24・8・30 発行 】

～お母さん自身の「楽しさ」～

最近1歳過ぎの同じ歳の子どもをもつ親子数組がよく遊びに来てくれるようになりました。たいむのお部屋では、同世代の子どもをもつお母さん同士ならではの話に花が咲き、「離乳食はどんなものを食べている？」「夜泣きが大変なんだ！」と日頃子育てをしながら抱く疑問や悩みなどを共有しているようでした。また初めて水遊びをしたり、初めてそうめんを食べたり、子どもの成長・子育ての中で「初めて」の経験を共に楽しんだり、言んだりする姿が見られました。

8月9日、前期の終わりに第2回流しそうめんを行いました。たくさんの参加者がいる中、そのお母さん方も流しそうめんに参加されていました。最初のうちは子どもたちのために流れるそうめんをすくうことや、食べさせたりすることに懸命で、子どもたちと竹の間を行ったり来たり...子どもたちがおいしそうに食べる姿に喜びの声をあげていたものの、忙しそうなお様子でした。

しかし、子どもたちがお風呂一杯になり、スタッフと一緒に水遊びを始めると、『次はお母さんたちの番！』といった雰囲気、子どもたちの姿を確認しながら、お母さんたちが集まり、流しそうめんが始まりました。そうめんだけでなく、ころころと転がるぶどうや取りづらいゼリーも、童心に戻りキャーキャーと楽しそうな声をあげ、子どもたちと同様に一生懸命に追いかけていました。お風呂一杯になるまでそうめんを食べられたようで、にこにこ笑顔で「楽しかったです。ごちそうさまでした。」と声を掛けてくれました。

たいむでは、子どもたちの育ちの中で「楽しかった」と思える経験をしてほしいと思い、様々な企画をしています。しかし、同時に子どものためだけでなく、お母さん自身も「楽しかった」「心地良かった」という経験をしてほしいと思っています。その「楽しさ」を感じられるような時間、空間を大事にしたいと思っています。楽しかったことや大変だったこと...一人ひとりの子育ての記憶の中で、楽しかった記憶の背景にたいむが存在したのなら、幸せだと感じます。(高橋りな)



おたよりを大切に～おたよりの意味

毎月1回、おたよりを発行してきました。育ちあいのひろばの“おたより”の意味は実は情報提供の意味ばかりではありません。

- ① 利用する人に活動の意義や内容、次月の予定を知ってもらう(情報提供)
- ② スタッフが自らの実践をまとめ、自らの学びとする機会(研修)

とくに、②のように、スタッフが、その月にかかわった子どもや保護者とのやりとりの中から最も印象に残る場面を「エピソード」にまとめ、それを1つ2つおたよりの中に入れていきました。

時には、再度、その意味を考えるように原稿を突き返したこともあり。これによって、スタッフの視点や考察力が高まることを期待し、1つの“研修”のツールとして位置付けて取り組んできました。

* 当初のパンフレット；手作り感満載！

***ほっとするひろばを目指して**

親子がいつでも来ることが出来る、ゆったりとくつろげるように、基本的にはプログラムは設定しません。日々追われる子育てに、呼吸つけるような場となれたらと思います。





***あそび**

わくわく工房だけではなく、中庭や廊下も子どもの遊びスペースとして設定しています。初めて水遊びをしたり、土に親しむ経験をしたり、異なる年齢の子どもと遊んだりして、成長していきます。



***会員**

ひろばを利用する親子は一人ひとりがひろばの会員です。当事者主体の心地良いひろばを一緒に創っていきましょう。



***活動**

「こんなことをやってみよう」という保護者の声から企画を立ち上げ、共に活動を創ってきました。得意なことや好きなことなどその人の持ち味を生かし、意見が反映された企画を行っていきたいと思います。



H24年度の育ちあいのひろば⇒この年から「育ちあいのひろば」と名称を変更

H24年度は、新たに「おやこのじかん」（旧ほっとステーションおやこは“幼稚園事業”として23年度は実施したため、主催と内容の一部変更）をスタートさせました。また、サロン機能だけでなく、家族のレスパイトケアのための緊急的な一時保育を行いました。

H25年度の育ちあいのひろば⇒この年から「年齢制限なし」「10：00－16：00のOPEN」

H25年にスタッフの大幅な入れ替えがありました（新スタッフ2名体制に）。そして、ひろばで特に変更をした点は、それまで「3歳まで」としていた利用する子どもの年齢制限の撤廃と（誰でも来て良い場とした）、開室時間の60分の延長（10:00－16:00）としました。前年度に3歳になる子とお母さんが、「来られなくなることでさみしくなる」と言っていたのが引掛かり、3歳になっても来られる場にしたいと、年齢制限の撤廃と時間延長をしました。

3歳までの年齢制限を撤廃したため、附属幼稚園帰りの利用者も増え始めた年でもありました。降園後の2時間でしたが、徐々に増えていきました。

幼稚園とも協働し、「めいとクラブ（1学期）」と「なかよしルーム」「めいとクラブ（後期）」の活動を行いました。

また、後に始まる学生主催ひろばの前進のゼミ活動を4回行いました。



○新たな変化

前身のほっとステーションから 14 年目、また、たいむとして3年目の春を迎えることとなりました。今年度は昨年度までのスタッフと入れ替わり、新たな年度に新たな体制で臨むこととなりました。新たな体制となるため、「現状維持」を目指すのがセオリーだとは思いますが、あえて、「挑戦」していかうと考えています。(小さな挑戦かもしれませんが…)

挑戦その1: 年齢制限を撤廃します!; これまでの「0-3歳の子どもとその保護者」というくくりを外し、「だれでもいつでも来られる場所」を目指します。これにより、幼稚園に就園した後も、またそれ以降(小中高生までも)、あるいは大人が単独でも、来ていただけるようになります。スペースの工夫や環境作りには、より一層工夫が必要かと思いますが、利用される皆さんと一緒に、作っていかれたらと思っています。

挑戦その2: 開室時間を 16:00 まで延ばします!!; これまでより1時間延ばし、10:00-16:00 までの開室にします(月一回の土曜開室は 15:00 まで)。これにより、利用する時間の選択が増えるとともに、幼稚園降園後など、様々な利用形態が可能となります。

*登録料については、H24 年度に登録いただいた方は、新たにいただきません。

また、これまで我々の事業について「子育て支援」と謳ってきましたが、「支援する側・される側」という役割ではなく、「子どもだけでなく、保護者やスタッフ、学生、教員、地域まで、だれもが対等に育ちあう関係を創り、育ちあう場を創る」という活動を目指すためにも、「支援」という言葉を活動からも書面にも表現しないようにしたいと考えています。そのため、HP や広報等から「子育て支援」の「支援」という文字をまずとっていかうと思います。そして、利用者もスタッフもなく、共に考え、共に創る広場と活動を目指していきます。

○初の利用者主催の企画「フリマ」

10月8日(火)から22日(火)までの2週間、秋・冬物の衣類・おもちゃ交換会が行われました。今回は2回目ということもあってたくさんの衣服が集まり、大盛り上がりでした。

印象的だったのは、お母さん同士で『これ、〇〇ちゃんに似合うと思って…』『これ、似合いそうじゃない?』と、みんなで一緒に考えたり、探したりしていたことです。子どもの成長は早いので買った洋服もすぐに小さくなってしまふ…新しい洋服を買ってもすぐに汚してしまう…、そんな悩みは母なら1度は思ったことあるはず!(私自身も困っていました)そんな時、このような企画はとてありがたいと私も母親の立場で参加しました。

これからもママたちのやりたいことをどんどん企画にしてくり返しこのような企画をやっていきたいと思います!たいむで協力できる場所はしますのでスタッフまで声をかけてくださいね!(の)



H26年度の育ちあいのひろば 学生主体ひろばの開催

26年度は、後期より石井ゼミの活動の一環として「あ・そ・BU」を行いました。全10回の活動でしたが、次第に毎回15～20組の親子が来るようになり、利用者の満足度、学生の満足度も高い活動となりました。これは、その後、あそべ屋(H27年)、TOYS(H28年)、あそび隊(H29年)、あそぶンジャー(H30年)と続いていきました。

また、保育教職実践演習や池谷ゼミをはじめ、様々な教科でのかかわり、休み時間などフラッと学生が遊びに来ようなかかわりが進み始めたのもこのころからでした。

障害児や気になる子どもとその保護者の支援のための勉強会を4歳児担任Gと行いました。ママカフェを2号館に設置し、毎日開催しました。

中学生の職業体験を受け入れました。生浜中学校4名(11月12日・13日・14日)、おゆみ野南中学校(11月19日・20日)6名。

保護者企画もいくつか行われました。5月27日～6月27日子ども用、大人用の衣類を無料で交換する企画「洋服交換会」が、6月、プラ版の制作を保護者が主催してプラ板制作を行いました。



H27年度の育ちあいのひろば

教員が行う企画もいくつか行いました。古山先生による「わらべ歌サロン」もその一つ。また、明石先生による「クリスマスコンサート」では、プロのギタリストの演奏をちょっと変わった雰囲気でも堪能しました。さらには、高森先生による「編みぐるみ」も行いました。



また、一時保育を拡大しました。おやこのじかん限定で行っていた一時保育「ミテテ」を、落ち着いてきた時期に、「1日1名枠」で「おやこのじかん優先」ながらも、会員の全家庭に広げました(ミテテ+)；ミテテプラス



■ある方からの直言■ こうしたご意見が広場を成長させる“宝物”

たいむは、「育つ」「育ちあう」ための様々な活動を行うことができます。「こんな企画をしたい」「こんな企画をしてほしい」など、いろいろお寄せいただくと幸いです。また、育ち・育ちあう場を創るにはどうしたらよいか、どんな育ちや新たなかかわりが生まれたかなど、一緒に広場を創っていけたらと思います…と、先月、巻頭言を書かせていただきました。

しかし、先日、利用者Aさんからたいむに対してのご意見をいただくことができました。それは、「なぜ、たいむの利用者が減っているか分かっていますか？」というものでした。これは昨年度からのたいむの大きな課題であり、私自身では

理由について、何となく分かっているつもりでしたが、スタッフが育つためにも、あれやこれやと改善するための作戦を練っているところでした。何より、全てが私の責任だと思っていたところでもあったので、その時はやや言葉を濁して答えました。するとAさんは、本質をよく見てくださっていて、私の考えとほとんど同じようなことをおっしゃってくれました。

とにかく、こうして直言をいただくのは、本当に幸せなことだと思っています。言いづらかったと思います。放っておけば済んだことをなぜわざわざ私に伝えてくれたのか。それは、たいむが良くなればと思っただけからこの一言だからでしょう。ここまで丸4年、 これまでも、こうしたいくつかの「直言」に学び、助けられてきました。

たいむのような広場は、ともすると「一期一会」の場になります。いらっしゃった方が「居づらい」と感じただけで、「次」はもうなくなるのです。これは、スタッフのちょっとした仕草であったり、他の利用者だったり、プログラムの内容だったりするかもしれません。そして誰も来なくなれば、この場所は必要なくなってしまうのです。

とにかく、たいむという場の「課題」を観ながらも、その対応について明確に対応策を打てていなかったということに、自分自身への悔しさと憤りを感じました。これからこの広場を生まれ変わらせたい。そしてAさんに「よくなった」と言ってもらいたい。そう強く強く念じる機会になりました。(石井章仁)

H28年度の育ちあいのひろば まんぷく café の開始

まんぷく café は、H28年に千葉市の助成を受けて誕生しました。当初、地域の方々の手を借りながら運営していましたが、なかなか運営も難しくなり、H28年8月からは、育ちあいのひろばの単独事業として行うようになりました。

○H28年6月のおたよりから

□第2回「まんぷく Cafe」を行いました！5月20日(金)

第2回目のメニューは「煮込みハンバーグ」。26組73名の参加者がありました。また今回より、3階講堂を体が動かせる遊び場として開放しました。元気のいい子どもたちに混ざって、小さな子たちも遊ぶ姿があり、まんぷく café の良さは、食べるだけではない、食事の前後に遊びを通して交流が図れることであると考えています。

*次回は、6月17日(金)メニューは「園で人気の麻婆豆腐」です。



*今年度より、たいむでは、千葉市中央区の助成を受け、近年全国的に広がる「こども食堂」を始めました。毎月第3金曜日は16:00～20:00を「まんぷく Café」の時間とし、大人300円、子ども100円で夕食を提供するほか、遊んだり・学んだりする活動を行っています

私と、この「育ちあいのひろば」は運命のような出会いでした。

旧ほっとステーションおやこが、文部科学省の補助金（特色GP）を受け、「育ちあいの広場ほっとステーション親子」として元教員の宮崎先生を中心に行っていたH17～18年、私は、都内の保育士養成の専門学校でゼミ生を中心に「おひさま広場」という活動を行っていました。その時、偶然宮崎先生と知り合い、日本保育学会の自主シンポジウムで実践報告をしないかというお誘いを受けたのでした。その自主シンポジウムには、千葉明德の実践と文京学院大学の子育て広場の実践、そして私の専門学校での実践の3つを報告したのです。その時は、まさか私がこの学校に来るとは夢にも思っていなかったのですが、その後、県内の4年制大学を経て、千葉明德に縁あって来ることができたのが今から10年前になります。その3年後、前任の小林先生より引き継ぎ、育ちあいのひろばの活動を創りました。

また、私は、さかのぼること15年前、新宿区の「ゆったりーの」を住民と作る活動（「新宿区子育て支援協同モデル事業」）のファシリテーターを任されたことがありました。保育園の空き施設を使って住民が集まり、どんな子育て支援を展開するのかを検討し、子育て支援を実践することを経験しました。特に、専門職ではない子育て当事者が広場を運営していく面白さと難しさを経験しました。

この千葉明德との縁、教員に就任して3年後に子育て支援を担当する縁、利用者主体・学生主体の広場をもう一度再現できる機会を与えられた縁が、私とこの7年を作ってくれた基となりました。

しかし、このひろばは常に安定していたわけではありませんでした。私自身たくさん失敗をしました。私のかかわりで不快な思いをさせてしまった方もいました。いつも来てくれていた方が突如来なくなったり、何が良くなかったのだろうか？かかわり方はよかったのか？と悩み考え、議論することもしばしばありました。スタッフたちも、快く羽ばたいていった方ばかりではありません。モヤモヤさせたまま別れたスタッフも数多くいました。学生もそうなのだろうと思います。

私がこのひろばに求めていたものは、「みんなが主体となる」ということでした。保育のように、「受け入れる者と託す者」のような関係ではなく、ショップのように「サービスを提供する者とされる者」の関係とは異なり、誰もが受け入れたり託したり、誰もが支援したりされたりできる場、その「場」を創ることこそが、私のこの7年間の仕事であったと思っています。

そして、この場は、そこにいる人たちによって、いろいろな形へと変わっていきます。必要であれば皆が集まってきて、必要がなくなれば消えてしまうほどはかないものだろうと思います。次にこの場にかかわる人たちには、ここは特定の誰かの場所ではなく、ここの活動は特定の誰かがやるものではないということは常に大事にしていきたい。かつて、パールマンは、「4つのP」を問題解決のアプローチの基本であると提唱しました（place 場 person 人 problem 問題 process 過程）。育ちあいのひろばという場所、そこに集う人（利用者、子ども、スタッフ、学生、地域、その他）、それぞれが抱える問題（スタッフも利用者も）、集う人が寄り添いだんだんと解決していく過程、これらが利用者主体で進んでいくことが望ましい姿なのです。完璧な人はいませんし、完璧な支援のあり方もありません（ノーバディーズパーフェクト）。私自身が完璧ではなく、常に学び成長してく存在なのです。

人間は学ぶと自分自身の思考や行動が変化します。このひろばが7年間、常に変わり続けて、今の姿になったのは、ひろば自体が学び、成長を遂げたのであろうと思います。その場を少しでも育てられたのであれば、私のこの学校での存在意義があったのかもしれない。

ともかく、10年間、ありがとうございました。今後もここでの学びを基に、保育者養成、子育て支援

にまい進していきたいと思います。また、会いましょう。

【理念と基本方針】

I. 理念

- 子ども・保護者・学生・スタッフが育ち・育ちあう場
- みんながいろいろな「時間」を過ごす
- 子ども・保護者・学生・スタッフがアイデアと力をだして、一緒に創る、みんなの広場

II. 基本方針

- ①子ども・保護者・学生・スタッフが育ち・育ちあう場を創る
- ②子どもの最善の利益を追求するとともに、保護者が人として生きる過程を支援する
- ③育ちあいの拠点・保育・相談・情報提供・など、先駆的・実験的な事業を展開し、常に新しい価値観や意義を創造する
- ④附属幼稚園や地域の子育て関係団体等とつながり協働する
- ⑤保護者や学生の参画を促進し、主体的にかかわれる機会を創る

III. 活動・機能

- ①子どもと保護者が集い、自らの活動の拠点となる場
- ②学生が、授業その他の機会に子どもや保護者とかわることのできる場
- ③障がいや発達に心配な子どもや保護者のサロン
- ④附属幼稚園との協働事業
- ⑤地域のNPO等との協働事業
- ⑥気軽に話や相談ができる場
- ⑦一時保育
- ⑧子育てその他に関する情報提供
- ⑨保護者の主体的な活動の促進
- ⑩学生の主体的な活動や参画・参加の促進

○村上さんの登場時のご挨拶↓ おたより H28 年 6 月号より

○新しいスタッフのご紹介○

村上 知子(むらかみ ともこ)

約10年ぶりに仕事に復帰しました。現在は、小学2年生の男の子・年中組の女の子、2児の母で、毎日育児に奮闘中です。たいむに来てくださるお母さん方と育児の事でいろいろと共有できたら嬉しいです。趣味は、消しゴムはんこ・封筒づくり・フェルトなどです。よろしく願いいたします。

* 村上さんは、明徳の卒業生でもあり、前職は幼稚園教諭を長くされていました。保育者の目線で、保護者の目線で、見ていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

◇たいむでの約3年間での学び・気づき・・・◇

村上知子

千葉明德短期大学卒業後、幼稚園に8年間勤務。その間結婚をし、自分も母親になりたいという強い思いから退職、9年ぶりに明德付近に引っ越すこととなりました。

現在小学生の1男・1女の子どもがおり、当時は専業主婦として子育てに奮闘中でした。移動手段は自転車のみ。行ける場所も限られたエリアしかありませんでした。

そんな時、散歩中に出会ったのが、当時学生の時にお世話になった短大の先生でした。ホットステーション親子をやっているから良かったらいらっしやいと声を掛けて頂き、それから参加するようになりました。

子育ては、楽しい・赤ちゃんは可愛いと漠然と感じていましたが、いざ子育てをしていくとちょっとした仕草や表情に愛らしさを感じたり、寝返りをしたり、ずりばいといった成長過程をまじかに見る事で感動したり自分の知らない世界が沢山ありました。日中は、親子二人でいると嬉しいことや発見も多々ありますが、泣き声に追い詰められたり、我が子でも何を望んでいるのか分からず、苦しい事も沢山ありました。広場や支援館にいても仲良くお母さん達の仲間に入れるのか、周りの子ども達に迷惑をかけないか心配でしたがスタッフの方に笑顔で話しかけられ、子育ての悩みや疑問を聞いてもらったり大人同士で会話する事で心にも余裕がうまれる場面もありました。

2011年から育ちあいのひろばたいむとなり、以前は時々たいむを利用していた会員の一人でもありました。なかなか一歩が踏み出せず気がつけば8年程子育て中心の生活をしていましたが、縁あって育ちあいのひろばたいむにスタッフとして戻って来ることとなりました。久しぶりの社会復帰でドキドキしながらも、家庭意外にも自分の居場所が出来たと嬉しい気持ちでいっぱいでした。この場は、色々な人が集う場所であり勇気をもってせっかくきて頂いても居心地が悪かったり嫌な思いをしてしまっは、二度と来なくなってしまうという怖さもありました。子育てに対しての価値観や考え方も人それぞれ。まずは、相手の話をじっくり聞くことを意識していきました。悩みや不安は人によって重さや量は違っても、みんな我が子の事を思うが故に悲しんだり、頭を悩ませたりしているんだなと感じていきました。みんなが集う場所だからこそ、気を使ったり気を張ったりすることもあると思いますが、みんな子育て中・お互いさまの気持ちで互いに依存しあい時に頼ることで解決策が見つかることもあると思います。

たいむでの貴重な体験としてドジョウすくい、流しそうめんが印象的です。今後の人生でもう一度経験出来るか分かりませんが記憶の中に鮮明に残っています。みんなで肩を寄せ合いながら歓声を上げたりドジョウの感触に顔をしかめたりする光景を今でも忘れることはありません。

今年度はスタッフが一人しかいなかった為、目の行き届かないことも多々あったかと思います。お母さん達のお手伝いやアイデア、行動力のお陰で乗り切れた部分が本当に沢山ありました。学生たちにも多くの場面で支えられ励まされました。私の方が逆に支えられ元気をもらって仕事が出来ていたのだと改めて見つめ直す機会を頂きました。一つの園だけでは、視野が狭くなり、そこで行われている保育が当たり前の感覚になりがちということも実感しました。他を見る事で、自分の保育に対する考えや価値観の変化も生まれました。様々な家庭環境の中で育っている子どもたち。幼いなりに自分で考え自分の意思で行動しています。大人は、どんな時も決めつけることなく、子どもをじっくり観察・見守りながら話を聞ける関係性を築いていくことの重要性に気付かせてもらいました。ここでの経験や体験をもとに、4月からの新しい現場で活かしていこうと思っています。感謝の想いしかありません。楽しい思い出が沢山出来ました。本当にありがとうございました。また、お会いしましょう。

◇節分の豆まき◇ 2月1日(金) 午前の部・午後の部



毎年、恒例行事となっている豆まき。昨年は雪が積もり毎年天候が心配されますが今年も無事に終わることが出来ました。

午前中は少しソフトに、午後は少しハードに不気味な音と共に鬼が登場しました。

普段、スーパーなどで見るお面とは違った怖さからか泣き叫ぶ子・後ずさりする子・豆をまくことも忘れる子など様子は様々でお母さんの後ろに必死につかまる姿が多数見られました。

子ども達のカによって降参した赤鬼と青鬼は「助けて下さい。もうしません。」と鬼のパンツの踊りを披露し、写真撮影をして鬼の国に帰って行きました。その後は、豆をみんなで掃除をし、歳

の数だけ豆を頂きました。お餅を角切りにして素揚げした揚げ餅も大好評でした。

本来、怖がらせることが目的ではなく自宅や幼稚園・保育園などでも経験することが少なくなってきた昔からの風習に触れる機会になればと思い行いました。

今年は、鬼が近づきすぎたのか、数日たっても鬼が怖い、たいむに行かないと怖がる姿もあるようですが実際に子どもが色々な体験を自らすることで様々なことを感じっていると願っています。



まずに豆を入れるお手伝い



揚げ餅



鬼のダンス

◇ たいむを育てる会(運営委員会) 議事録 ◇ 2月5日(火)・27日(水)10:30-11:30

1・3月の行事予定

- ・おつかれさま会・今年は何を行うのか・行うなら内容を検討・時期などについて

2・次年度の新事業について

- ・今年度、たいむ終了について
- ・現時点での新事業の決まっている内容・詳細
- ・今後の疑問や不安などについての質疑応答

◇2年生ありがとうの会◇ 2月8日(金) 12:00—12:45



運営委員のお母さん方の呼びかけで2年生を招待しての食事会を行いました。

メニューは、カレーとデザートです。買い出しの準備から始まり、前日の下ごしらえ、当日の調理子どもたちを見る係りなどお母さんたちで役割分担を決めて進めてくれました。当日は、限られた時間の中でしたが子どもたちが作ったメダルを渡す場面から始まり談笑したりと学生たちも美味しいと大喜びでした。

食後には、サプライズで学生からのコメントをもらっています。

たいむに掲示していますのでご覧ください。

お母さんたちにとっても、学生にとってもスタッフにとっても助けられたり助けたりといった関係性の中で相乗効果があった1年間だったのではないのでしょうか。4月から新たな道に進む学生たち。

陰ながら応援したいと思っています。



◇おひな様を作りました◇

毎年、恒例になりつつあるひな制作。手型・足型をとることで一年間の成長が感じられると大好評です。

絵の具デビューの子ども達も沢山います。0・1歳児はお母さん中心に仕上げ、2歳児以上の子ども達は親子で参加したり自分たちで仕上げたりと個性豊かな作品に仕上がりました。



親子で楽しむ



はじめてデビュー



完成作品

◆学生とあそぼう◆

有志の学生がたいむに遊びにやってきます。みんなで沢山あそびましょう。

【日時】3月1日(金) 10:00-16:00
(昼食時は除く)

【場所】たいむ



◆次年度説明会 & 子育てお話し会◆

4月からの新事業についての説明会と子育てについて楽に語り合いませんか。石井先生が色々お話しさせていただきます。ご参加お待ちしております。

【日時】3月12日(火) 10:30-12:00頃

【場所】たいむ

◆お疲れ様会をしよう◆

【日時】3月14日(木) 第1部 10:30-12:00「ビンゴ大会で景品をゲット!!」
お母さん向けの内容です。

【持ち物】800円程度の景品・各自飲み物

第2部 14:30-16:00「ミニゲーム&スライドショーをみよう」

【参加費】大人100円・子ども200円

【場所】たいむ

※たいむ受付名簿・facebook・たいむ直通電話にて予約を受付けます。

3月11日(月)締め切りです。第1部・第2部のみ参加。両方参加でも大歓迎です!!

★お知らせ★

・12日(火)は、次年度に向けての説明会となりますが、カーペット洗浄の為 12時30でたいむは閉室となりますのでご協力お願い致します。

・今年度は3月14日(木)でたいむの活動は終了となります。15日(金)は、短期大学の卒業式の為たいむは1日閉室です。学校内も入ることが出来ませんのでご了承ください。

また、18日(月)より次年度準備の引き継ぎ、環境整備の為1週間閉室となります。

25日(月)からは、スタッフ不在のまいペース・まいすぺえすとなりますのでご理解とご協力をお願い致します。